

「生誕150年記念 村井弦斎展」を開催しました

# 生誕150年記念 村井弦斎展

村井弦斎は古田（現在の豊橋）藩士の子に生まれた新聞作家です。代表作『食道楽』は、現代のグルメ小説の先駆けといえ、明治という激動の時代で大きな反響を呼び、当時森鷗外ら文豪の作品をしのぐ大ベストセラーとなりました。

今年は弦斎の生誕150年にあたります。今回の資料展はそれを記念したものです。



村井弦斎像  
中央図書館蔵

期間 ■平成26年4月26日(土)～6月8日(日)  
場所 ■中央図書館 2階展示コーナー



『増補注釈 食道楽』（全4巻） 中央図書館蔵



会場では、ご遺族の方から寄贈いただいた資料を中心に、弦斎の生い立ちと世に輩出した作品を紹介しました。

寄贈資料の中には、『食道楽』など弦斎の作品だけでなく、村井家伝来の調理用具や櫛など村井家の生活を想像させる貴重な品々が含まれています。

←館内設置のポスター



村井家伝来の地図や紋入りの幕



村井家伝来の櫛や教科書

期間中、1,865人の方々に越えいただきました。  
お寄せいただいたアンケートでは、「村井弦斎のことは全く知らなかったが展示を見て大変興味深く感じた」、  
「村井弦斎は知っていたがこれほどの人物とは思わなかった」などのご感想がありました。



展示目録

ゲストトーク

## 明治の家庭啓蒙思想家 村井弦斎 ～20世紀初頭の20世紀未来予想～

講師 富安 廣次さん（富廣書林店主）

これまで弦斎について研究されてきた富安さんが、弦斎作とされる「二十世紀の予言」や弦斎の生涯と先見性についてお話されました。当初の定員は30人を予定していましたが、好評のため38人の方にご参加いただきました。

日時 ■平成26年4月26日（土）  
14：00～15：30

会場 ■中央図書館 3階 第2会議室

